

古瀬戸と美濃

橘岳・鈴木都 二人展



GAKU TACHIBANA

SHU SUZUKI

KOSETO AND MINO STYLE EXHIBITION

1.17 SAT - 27 TUE 2015

GALLERY
うつわノート

料金後納
ゆうメール

橘 岳・鈴木 都 二人展

古瀬戸と美濃

二〇一五年一月十七日（土）から二十七日（火）まで 会期中無休
営業時間 十一時～十八時 作家在廊日 一月十七日・十八日

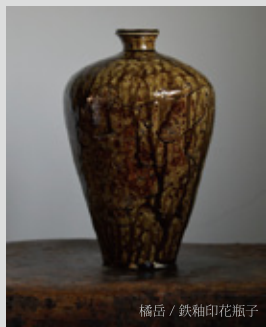
瀬戸と美濃は、日本の焼き物史の中でエポックとなる重要な地域です。「古瀬戸」は八百年前に日本で初めて施釉陶器を手掛け、灰釉瓶子、鉄釉天目茶碗など当時の中国の影響を強く受けた焼き物を作りました。一方の「美濃陶」は、安土桃山時代によく海外の影響から離れ、志野・瀬戸黒・黄瀬戸・織部など、日本独自の様式を確立しました。

現在、橘岳さんは瀬戸市で「古瀬戸」を、鈴木都さんは土岐市で「美濃陶」を制作しています。お二人とも同地の出身ではなく、それぞれの焼き物の原点に近づく為に、原料の土を入手できるこの地に移り住みました。現地周辺の粘土を自ら掘り、釉薬を作り、古来からの古瀬戸と美濃陶の姿を求めて日々取り組んでいます。お互いに面識はあったものの、共同の展示会は今回が初顔合わせになります。

橘さんは三十代半ば、鈴木さんは三十歳。代々続く焼き物の家系ではなく、自らの意思でこの道に入りました。橘さんは大学卒業後、自分を投じる職になかなか出会わず、中世に生まれた古瀬戸の姿に魅せられて、瀬戸の訓練校で陶芸を新たに学びました。鈴木さんは、幼少の頃から加藤唐九郎に憧れ、小学生時代に自ら土掘りに出掛け、中学生の時は美濃の古窯跡を巡ったりと、早熟な焼き物少年がそのまま今の職に繋がっています。

今回お二人に展示会をお願いしたのは、古典の焼き物に取り組んでいる共通点もありますが、それ以上に関心を持ったのは、生活陶芸が全盛の今、時代に逆行するように原点となる焼き物に立ち向う純粹さに強く惹かれたからです。彼らは頼ることが出来る焼き物の血縁もなく、もどかしく足掻きながらも、一途に根幹に近づこうとしています。その姿は古典に向かいながらも、むしろ新しい時代の可能性を感じるのです。まさに新年幕開けに相応しい展示会です。敢えて言いましう、大型新人の登場です。是非ご高覧下さい。

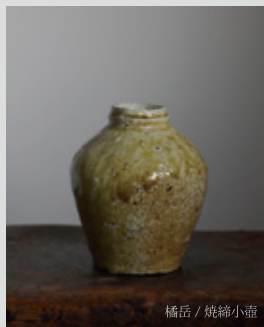
店主敬白



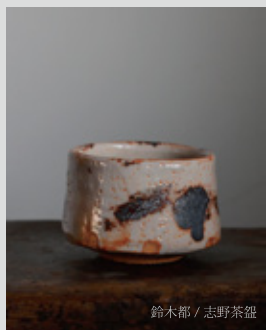
橘岳 / 鉄釉印花瓶子



鈴木都 / 黄瀬戸銅羅鉢



橘岳 / 焼締小壺



鈴木都 / 志野茶鉢



橘岳 / 三筋壺



鈴木都 / 黄瀬戸茶盃

橘 岳（たちばな・がく）

1978年 千葉県生まれ
2004年 一橋大学社会学部卒業
2010年 愛知県立窯業高等技術専門校修了
2014年 現在、愛知県瀬戸市で制作

鈴木 都（すずき・しゅう）

1984年 東京都生まれ
1997年 美濃古窯跡を訪ねる
2011年 愛知県立窯業高等技術専門校修了
2014年 現在、岐阜県土岐市で制作

ギャラリーうつわノート

埼玉県川越市小仙波町1-7-6
TEL 049-298-8715

電車：川越駅（東武東上線・JR）より徒歩25分
本川越駅（西武新宿線）より徒歩20分
バス：川越駅東口3番乗り場
[小江戸名所めぐり]乗車～[喜多院前]下車
車：専用駐車場有（25～28番）

